

ITALY

イタリア



日本と類似点の多い「伝統と文化」の国イタリア

「独自の食文化」「フェラーリやフィアットを代表とした自動車産業」「ファッションを機とした確立された企業ブランド」「世界遺産と観光産業」など、日本と多くの類似点がある「伝統と文化」から、第50年度スローガン「伝統を創造しよう」のもと、研修の会として、得るモノが多かったイタリアに感謝。

伝統と革新と多様性の国
イタリアに触れる旅

第50年度会長 北野 英樹

「伝統を創造しよう」をスローガンに掲げた50年度。研修旅行先として伝統や歴史を感じるイタリアというのはまさに50周年を迎えた大垣青年重役会の記念旅行としてはふさわしいものでした。

人口も日本の半分、経済も低迷するイタリア。それなのに魅力にあふれている。石畳の道路、重厚な石造りの建造物が並び、街中のいたるところに遺跡や荘厳な古い教会が点在する街並み。芸術においてはルネッサンス期のレオナルド・ダ・ヴィンチに代表されるよう数多くの天才を輩出し、フェラーリやランボルギーニなど独特な存在感のある世界的なブランドを創りだしたイタリア。街を歩き、その空気に触れるだけでも感じるものはあり、刺激を受けます。

研修先のフェラーリでは、残念ながらからフェラーリに乗ることは叶いませんでしたが、長きに亘って創造し続けた強力なブランド力を十分感じました。スーパーカー世代の自分にとってはワクワクしっぱなしの時間となりました。そしてもう一つの研修先は、バチカン市国でのラファエロの「アテナイの学堂」。実物を見るとその迫力に圧倒され、哲学者たちの探究する姿に研修の会の大垣青年重役会を重ね合わせ、初心に帰る思いでした。

ほぼ4日間の行程で、あじという間の時間でしたが、メンバーの中に親子という形や夫婦という形があつて、皆それぞれいろんな思いを持って濃密な時間が過ごせたのではないのでしょうか。企画して下さった記念旅行委員会の皆様、そして旅を共にした皆様、心に残る研修旅行になったこと、心より感謝いたします。ありがとうございました。

研修先の「バチカン市国」晴天なり、自然に笑みもこぼれます



研修先の「フェラーリ工場」にて、聞き入る一幕





① セントレア空港にてすこし緊張な面持ち。寸田幹事長と近沢会員も見送りに駆けつけていただきました。



② 初日の夕食はミラノのトラットリアでイタリアの大衆食文化を堪能しました。



③ 今回の旅行には、佐竹紀皇先輩、加納会員の奥様と田端会員のお子様も参加していただきました。



④ ミラノのドゥオーモにて。日本と違い石文化であり、全てが芸術的かつ神聖な場の重厚感により終始圧倒される雰囲気でした。世界最大級のゴシック建築を目のあたりにして、異文化の壮大さを肌で感じました。



歩き方 「イタリア視察研修旅行」の 創立50周年記念事業



⑤ フェラーリ工場にて。デザイン性溢れるテクノロジー工場で1日に約30台の車を生産しているフェラーリの本工場とテストコースを見学しました。



⑥ バチカン宮殿内のラファエロの間にて「アテナイの学堂」を鑑賞。古代の賢人たちが描かれた大きな壁画を前に、厳粛な気持ちになりました。



⑦ 約9000km(時差7時間)のローマと大垣をネットワークでつないで、四季の会とコラボをしました。諸先輩方とスカイプを通して交流しました。



⑧ 最終日。イタリアでの最後の晩餐。レストランにてイタリア食文化をコース料理にてローマが発祥のカルボナーラやワインなど、堪能いたしました。



「イタリア視察研修旅行」を振り返って、皆様に感想をいただきました。



Ancora imparo (私はまだ学んでいる)

平野 宏司

「会社は人で成る。人はあらゆるクリエイションで困難に立ち向かい、誇り高く固い決意で世界に挑む」。フェラーリ・ミュージアム入り口の一節である。往年の名車を通り過ぎると「エンツォ(創業者)の情熱」「常識を破る」と力強く書かれた各コーナーへと続く。

自らの職場と重ね合わせ、気持ち奮い立たせつつ歴史の街ローマへ。紀元前の重厚な空気にどっぷりと浸かり、バチカン美術館にて「アテナイの学堂」を目に焼きつける。古代ギリシャを偲びラファエロが描いたルネサンス期の傑作には、同時代のダ・ヴィンチやミケランジェロに似せた哲人プラトンやアリストテレスらが、ある者は歩き、ある者は座り込みと、思い思いの格好で学んでいる。まさに自由な研修の場。

5年前のフィンランド研修旅行で、芝生で語らう仲間達をこれからの研修スタイルとして紹介したが、今回の旅行で、それが決して新しいものではなく、むしろ本来の姿であることを確信した。Ancora imparo(私はまだ学んでいる)。ミケランジェロの有名なセリフは、創立50周年を迎えたOJBへの啓示であり、最高の旅行となった。貫禄ある統率力の北野さん、抜群のセンスと実行力の牽引役川瀬さん、前田さん、足立さん、一緒に楽しむ時間を過ごした田端親子さん、加納夫妻さん、北倉さん、浅野さん、松本さん、特別会員入会式をローマからネット中継で行なうた佐竹さん、そしてもちろん日本でもサポートして下さったすべての方々にお礼申し上げます。

公私混同な働き方が最高なイタリア 松本 正平

コロッセオの入場チケットを買うために長い列が出来ているにも関わらず、女性の係員は平気で後ろを向いて男性と楽しそうにおしゃべりしている。

ローマでお土産を買おうという人のお店を行き来して、1時間近く同じ通りをうろちよろしている間中ずっと、ある薬局の前で携帯電話で話をしている女性の店員がいる。

朝「ボンジョルノ！」と挨拶してくれたホテルマンが、夜も10時過ぎに帰ってきた私たちを「ボナセーナ！」と声をかけて出迎えてくれる。ランチを食べたピッツェリア・リストランテの店員は「ちよとまでちよとまでお兄さん！」「ワカチコ、ワカチコ」など知っている日本語を連発で発して場を盛り上げてくれる。

どれも共通していることは、誰もが楽しそうだというところ。単純労働でも長時間労働でも楽しそうに働いている。街を見ると、コンドミニアが無い、チェーン店らしき店も少ない。街中世界遺産なので、画的な建物もない。店頭も何の店か分かる程度でお店の名前を目立つようにはしていない。(例えば薬局は同じ緑十字のマークとFARMACIAとだけで店名なし)

中小零細企業が多いイタリア。労働時間は長いかもしれないが、常に一生懸命働いているわけではないが、楽しく仕事している。決して働かされていない。仕事とプライベートは別ではなく、楽しく生きている時間で縮。公私混同しているかも知れないが、労働条件や人間関係を気にして鬱々と働いているより何倍も人生を楽しんでいる！汲々とした日本とは全然違う働き方を、うらやましく思う。

Compagno

浅野 信哉

皆様のおかげで事故もなく、怪我もなく多少のハプニングはあったものの仲間と研修し無事研修旅行から帰ってくる事ができました。14日の朝、空港に集合した時から18日の朝、空港で解散するまでの間非常に内容のある研修の連続でした。いつもの仲間とおいしい料理を囲みながらの会話。ふざけた話もしながらイタリアの歴史に感化されこれからのことについて語り合う貴重な時間。

研修旅行に参加するといつも感じる「仲間のいるうれしさ。幸い？ iPhoneがいつも簡単に現実に戻してくれるため日常を100%忘れることはできないものの非日常の中で刺激されまくりました。

「歴史」として簡単に表現してしまうにも申し訳ないほどの世界遺産。コロッセオの中に立ち闘技場を眺めながら壮絶な「歴史」に感動し同時に自分ごとと考えた時、後ろでほほ笑む平野さんにガツッリ肩を掴まれたような気がしました。(実際は掴まれてないですけどね。)

こんな貴重な時間を与えてくれた皆様(会長、実行委員長、役員、会員、会社、社員の皆、そして家族...)には心より感謝申し上げます。この研修旅行が皆様や地域のためになることを思いながら感想を書かせていただきました。

ありがとうございます。Compagno(イタリア語:仲間)

合作です

作 加納浩二 添削 加納ゆか

50周年の記念研修旅行に今回、参加をさせていただきました。イタリアだけでなく、ヨーロッパへは初めて行くのでどのような場所か期待と不安が入り混じった心境で参加させていただきました。

まず、ミラノについた夜に駅の大きさに圧倒され、翌朝よりミラノで最大のゴシック建築として名高いドゥーモ教会を見学し、その厳かな雰囲気・精巧さに驚きました。

その後フェラーリの工場見学に行き、フェラーリの物づくりに対する考え方を学びました。行く前はフェラーリは少ない人数で手作りで作っているイメージでしたが、ひとつの街といえる程の大きな工場とその中を行きかう人と車に大幅にイメージが変わりました。また、その後のフェラーリ博物館では歴代のスーパーカーに感動して沢山の写真を残し、とてもいい思い出となりました。

ローマに移動しての3日目、バチカン美術館、システリーナ礼拝堂では有名なミケランジェロの描いた巨大な天井画に圧倒され、サンピエトロ大聖堂では代表作の「ピエタ像」を見学し、改めて世界的なキリスト教の中心地である事を実感しました。その後ローマの市街地見学ではフォロ・ロマーノ、コロッセオを見学しましたが、残念ながらここではトイレを探して遺跡を見る余裕がなくせつかくの遺跡の大きさに感動出来なかったのが残念です。

今回の旅行を通じイタリアのローマ時代からつづく多くの歴史や文化にふれその雄大さ・荘厳さに感動し圧倒された旅でした。

このような貴重な経験をさせていただいた旅行委員会の皆さま、本当にありがとうございます。また旅行中はお気遣いをいただきました。さらには、参加された皆様にも非常にお気遣いをいただきました。ありがとうございます。

グラツチエイタリア

北倉 拓也

まずは今回の50周年旅行に参加させて頂いた事を感謝します。今回の旅行は私にとっても挑戦でした。開業してからはや6年、こんなに長く仕事を休んだ事がなく本当に不安定でした。仕事面においては事前の準備をし色々なケースも想定して、帰って来た今、何事なく業務できていたのを見てほっとすると同時に私と従業員を成長させてくれた旅行だったと思います。

一日目のミランではミランの街並みや食事を楽しませていただきました。伝統あるミランの街は本当に素晴らしく日本とは違う文化を学ばさせて頂きました。二日目のフェラーリではごたわりのフェラーリ工場とF1にかける熱い思いが伝わってきました。またF1のテストコースにあつた無数のタイヤコンをみてドライバーの生死をかけたトレーニングを考えさせられました。

3日目はバチカンにはいり、大聖堂にあるダビンチ、ラファエロの壁画や彫刻を見せて頂きました。両者とも天才と言われながらかなりの努力家だったとおもいます。途中、皆様にご迷惑をかけた事大変申し訳ありませんでした。また、一緒に行って頂いた方々、そして会員様をはじめ色々な方に感謝を言いたいと思います。

グラツチEJB

決断こそ夢実現

田端 漢

私は長男とイタリアに行く約束していました。それは、お互いまたまた世界中で一番行きたいところはどこか話し合った時、意見が合致していたからです。そこで私は長男にこう言いました。

よく行きたいなあとかやりたいなあ。みたいに言うけど、それでは絶対叶わないぞ。行きたいではなく行く！と決める事。

この決めるという決断こそ叶えるためのキーワードだ！なんて。

今年長男は受験生。また私も小さな会社の社長で私が1週間居なくても回るほどの経営ができておりません。しかしながらこれらの事は全てできない理由ではない。いつになったら準備万端何も障害がなく叶えられるでしょうか？ですので決断すること。行く！と決めたので今回たまたま研修先がイタリアという幸運に恵まれたので子供と二人、楽しんできました。いいでしょ！

イタリアで日本を知る

田端 漢

僕はイタリアへ研修に行き、日本がどれだけ平和かということを感じました。イタリアではヴェネチア、ミラノ、ローマなど様々な観光地を見てきました。

もちろん楽しかったのですが、ひとつスリというものが楽しみへの妨げになっていました。毎回カバンを自分の前に置き、人目を気にしながらしか行動することができませんでした。本当に全ての人が悪い人のように感じました。

日本ではどうでしょうか。この国ではスリというものはほぼ存在しません。どれだけカバンを目に見えないようにかけていても物を取られることはほぼないです。イタリアでは日常でよく行われてしまうのです。世界を見るとイタリアのようにスリがある国は多くあります。その中で日本ではほぼありません。これは日本にとって誇れることであり良いところだと言えます。

このことから僕は今回、イタリア研修で日本がどれだけ平和なのかということを実感しました。

田端さん親父は青春しています！

移動中も Si (はい)

バチカン市国 記念撮影



研修旅行を振り返って

川瀬 知哉

50周年記念という大垣青年重役会節目の年度でのイタリア研修旅行は、伝統と革新、多様性が満ち溢れる大変貴重な経験をさせていたいただける素晴らしい旅行でした。

フェラーリの工場見学では企業が一つの街を形成し、世界各国から訪れるオーナーや観光客でいっぱいでした。車の生産はその場所で行われず、生産量は1日に30台まで、またあらゆる生産工程は一人でこなすと聞き、他の大手自動車メーカーと比較するとモノ作りの考え方と作り込みの仕方が全く違うことに驚かされました。私の感覚では自動車は均質な品質であると考えますが、フェラーリは一台に微妙な違いがあり、それが魅力となり顧客のニーズがあるということに何か経営のヒントを得たように感じます。後でイタリア人は決められた作業が苦手と聞き、納得しました。

飲食店での店員の対応はともチャイミングで、大変楽しい時間を過ごすことができました。鼻歌を歌いながら掃除をしている店員、お客で混み合う中で堂々と席に座り食事をとる店員、日本では考えられませんがイタリア人は仕事もプライベートも区別なく楽しむと知り、羨ましさを感じつつも真似はできないものと改めて思いました。

ミラノは中世の街並みを残し、ローマは古代の街並みや遺跡を残しており、伝統と革新が入り混じる都市には大きな魅力を感じました。最後に、素晴らしい研修旅行となったのは共に参加された方々のおかげです。ありがとうございました。

50周年研修旅行に参加して

足立 貴保

私は、ヨーロッパを訪れたのは今回が初めてだったので、ミラノに降り立った瞬間から空気の違いに驚きました。ミラノの街を巡りながら町の作りや色使いにセンスを感じ、さすがファツシヨンの聖地と言われるだけあるなと思いました。

ローマではコロッセオやフォロ・ロマーノなどの遺跡を周り、壮大な歴史の一部に触れた気がしました。そして、バチカン宮殿で今回の旅の目的の1つでもあるラファエロの「アテナイの学堂」を鑑賞しました。以前私はプラトンの「自分に打ち勝つことが、最も偉大な勝利である」という言葉に感銘を受けたことがあり、絵の中のその姿に、改めてその言葉を思い出しました。

また、スカイプを使って、地元大垣とイタリアを7時間の時差を超えてリアルタイムに結び、四季の会の特別会員の皆様と交流することができました。

インターネットの技術によって無料で9,700kmの距離を超えて、リアルタイムにお互いの顔を見ながら会話が出来たことは良い経験になりました。全てが初めての体験ばかりで、学ぶことの多い思い出深い研修旅行となりました。

最後になりましたが、今回の旅行にて参加された会員の皆様とより懇親を深められたことをとても嬉しく感じております。ありがとうございました。

50周年記念研修旅行に参加して

前田 将志

50周年記念研修旅行2日目、ミラノからモデナ郊外の小さな町マフネッロにある、世界中から年間20万人が訪れるフェラーリ本社工場敷地内のミュージアムを見学しました。創業者エンツォ・フェラーリがレースに参加する資金稼ぎのために、ロードカーを売り出したという物語が伝説となり、1950年にF1世界選手権が開始されて以降、世界で唯一レースに参加し続けるフェラーリの精神・社風がブランドイメージを確立させ、そして本社工場では3千名が働く中、月間生産300台という希少性がフェラーリのブランド力を底上げしている。最も興味深かったのは、マフネッロはもちろん、ミラノ、ローマでも大型店のフェラーリ・ストアがあり、プーマとコラボしたスポーツ用品をはじめ様々なライセンス商品が販売されていました。ゲグったところ、利益率の高いブランドを利用した二次的なビジネスが売上高の23%を占めるそうです。このブランド創りの徹底さ、ブランドストーリーの重要性、ヒストリーの積み重ねに考え深いものがありました。自社のコンセプトや価値を見直し、未来を見据えたブランディングを再検討する機会をいただきました。有難うございました。

グラツェ

佐竹 紀皇

一度は行ってみたかったイタリア、本当にすばらしかった。感動と歴史を感じる街並み日本では味わえない時を過ごさせていただきました。あつという間の旅行でしたが、人生の中でこんなに感動した旅行は、はじめてかな……。

憧れのフェラーリの工場とミュージアムを見学できて、今でも興奮が冷めません。現役の会員の皆さん、今後も周年の旅行が企画されると思いますが、その時は、もし時間に余裕がありましたら是非、参加してみてください。きつと素敵な旅になると思います。今回、このような旅行を企画していただき、ありがとうございました。



編集・撮影……………記念旅行委員会委員長

同委員会副委員長

同委員会副委員長

同委員会副委員長

同委員会副委員長

同委員会副委員長

同委員会副委員長

同委員会副委員長

川瀬 知哉

前田 将志

足立 貴保

小川 智宏

清水 琢磨



一般社団法人 大垣青年重役会
第50年度平成27年10月26日発行